

支え合いのまち 稲毛

稲毛区支え合いのまち推進協議会だより No. 33

令和8年10月1日発行

編集:稲毛区支え合いのまち推進協議会事務局

稲毛区六川 4-12-4(稲毛保健福祉センター内)

TEL: 284-6141 FAX: 284-6193

「支え合いのまち稲毛」の推進に向けて

稲毛区支え合いのまち推進協議会 委員長 眞智 洋二

「稲毛区支え合いのまち推進協議会」は、自分たちの住む『まち』をより良くするための活動を支援するため、平成18年度から開催され、今年で20年を迎えました。

今回のおたよりでは、区内の様々なところで活動されている団体の紹介をいたします。

こちらでの紹介が、おたよりを手にとっていただいた皆様の日々の『支え合い』に資していただけましたら幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

・小中台地域福祉交流館での「サマーフェスタ」(小中台東地区部会)

本イベントは新型コロナウイルス感染症により休止していましたが、令和5年度より再開し、令和7年度には中学生ボランティアの参加を再開しています。小中台中学校・朝日ヶ丘中学校にご協力いただき、地域の方々と一緒になって行っています。



当日は、ボランティア活動の心構えと活動時の注意事項について、社協職員と地区部会の方から説明がありました。その後、各ブースに分かれて、受付、工作や手芸、魚釣り、ゲームなどを担当し、「サマーフェスタ」の重要な担い手となってくれました。

参加された幼児や児童は中学生のお兄さんお姉さんに優しく教えてもらって終始笑顔でした。

学生の皆さんにとっては、協力して成し遂げることの楽しさ、地域の方々との交流による学びと発見を得られた貴重な機会になったと感じています。

また、地域にとっても、世代を超えてお互いを知る機会になったと感じています。

・稲毛区認知症ジュニアサポーター養成講座(稲毛区高齢障害支援課)

稲毛区では、若年期からの認知症に対する理解を深め、認知症を身近なこととして感じてもらうとともに、「自分ならどうするか。何ができるか。」を考えるきっかけ作りとして本講座を実施しています。また、地域の高齢者が困っている時、徘徊等の異変があった時にいち早く気づいて周囲に知らせてもらえるといった地域で見守り支え合うまちづくりに繋がっています。

令和7年度からは小学4～6年生まで対象を広げることになり、千草台東小学校で講座が行われました。クイズや寸劇を交えて認知症の症状や認知症の方との関わり方について説明があり、実際に助ける場面に自分がいたらどんなことができるかを生徒同士で考え話し合う場面もありました。

生徒からは「認知症に関係なく、高齢者に優しく接したい」といった感想が出ており、世代を超えてお互いを思いやり・助け合う意識が育まれた機会になったと感じています。



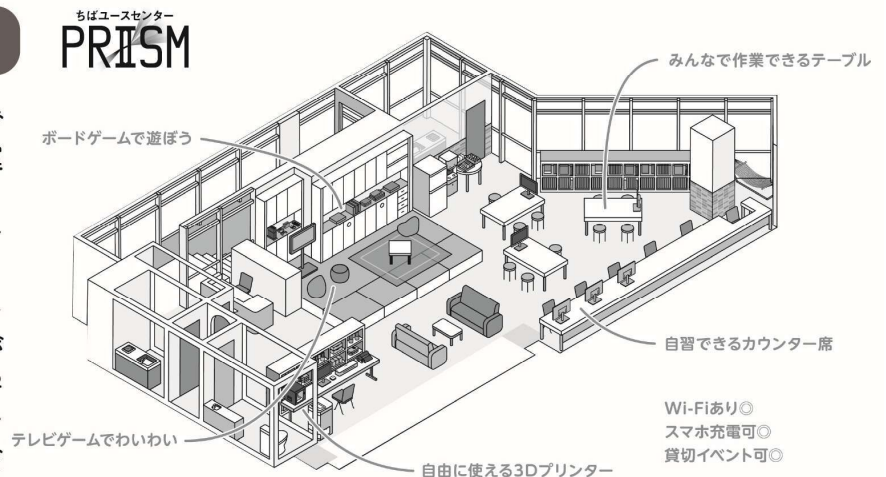
こども若者のやってみたい！を応援する地域の居場所 ちばユースセンター PRISM

ちばユースセンター PRISM は、こども若者の第三の居場所として、
民設民営で運営しているユースセンターです。

「やってみたい！」をきっかけに、こども若者とまちが
ゆるやかにつながる場を目指しています。

PRISM ってどんなところ？

PRISM は、千葉大学正門前の建物で
こども若者の第三の居場所として運
営しています。月10回開館しており、
小学校高学年から中高生、大学生を
中心に、多様な 10 代・20 代が集ま
るユースセンターです。ユースワー
カーが一人ひとりの話を聞きなが
ら、日常や「やってみたい！」に寄
り添っています。開館の詳細はイン
スタグラムをチェックしてみてください
さい！



①通常開館



PRISM の通常開館では、デジタルゲーム
やアナログゲームをしたり、ユースワーカーと
おしゃべりしたり、3D プリンターでものづく
りをしたりと、こども若者が思い思いに過ご
しています。

②こども若者主催のイベント



こども若者の「やってみたい！」をもとに、ユ
ースワーカーと一緒にイベントを企画・実施。
PRISM では、ルールや「どんな場にしたい
か」を話し合う「オープン会議」を行
いながら、安心して過ごせる場をみんなでつ
くっています。

③フードパントリー



PRISM では毎月第三金曜日に、こども若
者向けのフードパントリーを実施しています。
食料品のご寄付や、運営をお手伝いいた
だけるボランティアも募集中です。ご関心の
ある方は、ぜひお気軽にご連絡ください。

こども若者が安心して過ごせる挑戦と地域づくりを みなさんと一緒に育てていきたい 一般社団法人 Spice 代表理事：郡司 日奈乃

ちばユースセンター PRISM は、助成金や民間企業、個人の方からのご寄付、そして地域で暮らす大人
のみなさんからの応援によって運営されています。「若者が安心して過ごせる場所を地域につくりたい」と
いう思いから活動を続けてきました。学校や家庭だけではなく「自分らしくいられる第三の居場所」があ
ることで、救われる若者がいます。地域のみなさんと一緒に、若者の挑戦や日常を支えられる場をこれか
らも育てていきたいです。



SPICE

ちばユースセンター PRISM：千葉市稲毛区弥生町 4-3GrandPalace 西千葉 207
(JR 総武線「西千葉」駅より徒歩 7 分 / 京成線「みどり台」駅より徒歩 6 分)

▼SNS

▼HP



水曜カフェ 団地の中の無料喫茶店

地域おこし会 水曜カフェ

稲毛ファミリーハイツ団地の中、一週間に1度水曜日にカフェが開きます。

「水曜カフェ」と言います。男女、年齢、地域を問わずどなたでも大歓迎。地域住民のための無料喫茶です。稲毛ファミリーハイツ団地は53年経ったマンモス団地です。建物も住民の方々も高齢化していて、全住民の半数を高齢者が占めています。高齢者の孤独による引きこもり、孤立、老々介護による疲労、認知症による徘徊や水漏れ事故による近隣トラブル、外部との接触が取れず孤独死される方などが問題視されるようになってきました。



高齢者の孤独や孤立を回避することが第一との思いから、無料カフェを開き、人々が集まれる場、お喋りする場をつくることから活動を始めました。お茶を飲みながら集えば、お互いに顔見知りになり、話が弾み、笑い声がおこります。親しくなれば「小さな困りごと」、例えば“重い物が動かせない”“高い所に手が届かない”“買物カートが壊れた”などの話が出てきます。

高齢の一人暮らしの人にとっては、『小さな』どころか『大変な困りごと』なのです。そんな時はカフェの男性スタッフが、要望に応じて出動し困りごとを解決、一件落着です。また水曜カフェでは、季節に合わせたイベントやワークショップ、例えば2月には「ポリ袋で味噌作り」、7月は「七夕祭り」、12月は「クリスマスチャリティーバザー」など毎月開催しています。

水曜カフェは数人の有志によるボランティア団体です。有志の寄付金で賄っていましたが、去年から千葉市より補助金の交付を受け活動しています。オープンして1年半、稲毛ファミリーハイツ団地の人



が8割、ちいき新聞、地区社協だよりの取材などもあり、団地の外から2割の人が来場されています。千葉市長、稲毛区長、稲毛保健福祉センター長の視察があり、来場者、スタッフ一同、大いに励みになっています。

今では「水曜日を楽しみにしている」「顔見知りや知り合いが増えた」などの声が聞かれ、多くの笑顔が生まれています。

地域住民の交流の場として、高齢者の憩いの場として、水曜カフェは大切な楽しい場所になっています。近くにお越しの際は、ぜひ、「水曜カフェ」にお立ち寄りください。



日時

毎週水曜日
午前10時～午後3時
※正午～午後1時は昼休み

場所

千葉市稲毛区柏台1丁目
ファミリーハイツ5号棟1階
(稲毛ファミリーハイツ郵便局斜め前)

Instagram

ホームページ



自治会コメント記入欄					
訪問日	20	年	月	日	訪問者
対応：					